

完成から70年経った現在では、波浪による洗堀を防ぐ、治水施設として機能しています。



△H16.10.9 台風22号による波浪状況 (当施設より上流の箇所)



スロープや石積み護岸が、波浪による洗堀を防ぎます。



大山地区水防拠点

水防拠点とは
 万が一被災を受けた場合、水防活動や緊急復旧活動を円滑かつ効率的に行うため、ヘリポートや建設機械の活動スペース、緊急船着場などを整備するほか、土砂や栗石及び根固めブロックなどを必要な資材を備蓄し、災害に備える施設です。

【大山地区水防拠点 イメージパース】

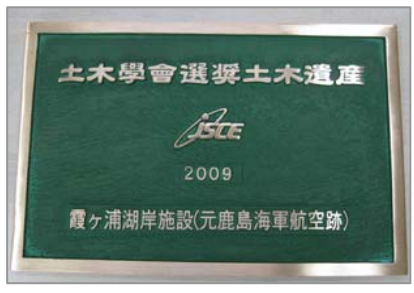


霞ヶ浦湖岸施設(元鹿島海軍航空跡)
 -近代・土木遺産-



歴史的に重要な土木構造物である元鹿島海軍航空隊の施設の内、霞ヶ浦湖岸施設が土木学会選奨土木遺産として平成21年11月に認定されました。

元鹿島海軍航空隊の施設は、昭和11年1月から建設が始まり、翌昭和12年に練習基地が完成し、日中戦争たけなわのときに練習航空隊として開隊されました。
 昭和20年5月5日に、練習航空隊の指定を解除され、鹿島北浦派遣隊となり鹿島航空隊と呼ばれるようになりました。
 航空戦における水上機の隊員教育および施設計画の全容が現在も遺構として残存している点とあわせて、戦前から戦中における我が国の航空戦史上固有名かつ重要な歴史的価値を有している施設です。
 完成から70年経った現在でも、湖岸施設は治水施設として活躍しています。



記念碑



霞ヶ浦湖岸施設（元鹿島海軍航空跡）



機罐場跡



機罐場跡

カタパルト跡



カタパルト基礎跡

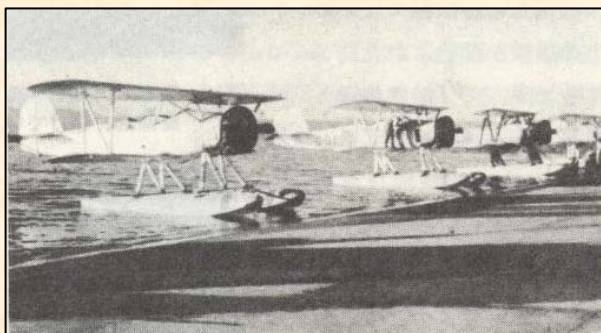


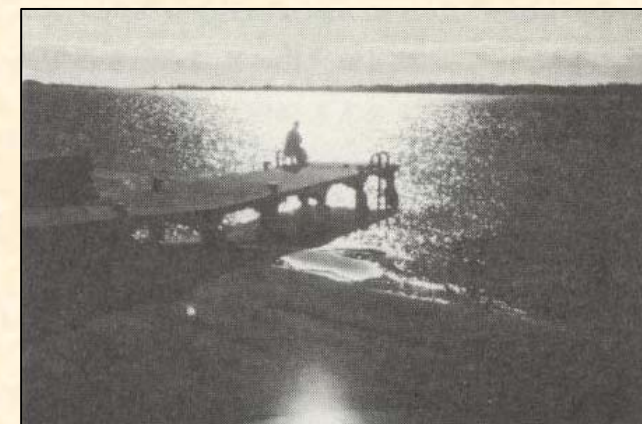
図11 霞ヶ浦の水辺に横隊を組んだ複葉九三式水上観測機の壮観な眺め

滑走台跡



「東京医科歯科大学霞ヶ浦分院史」より

棧橋跡



石積状況（カタパルト跡）

「日本の水上機」著：野原茂より

カタパルト